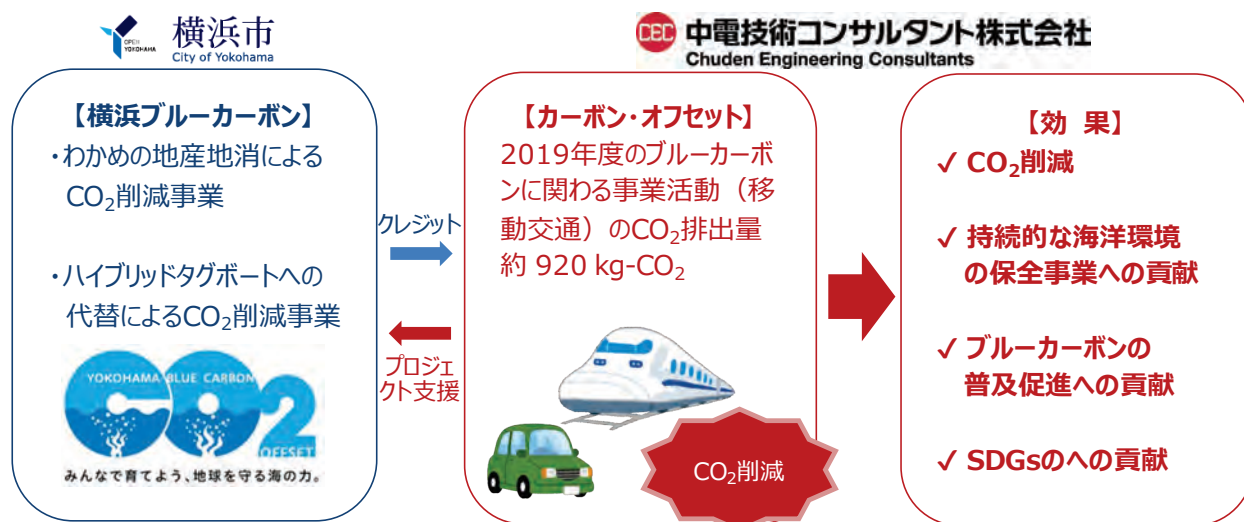


中国地域初！『横浜ブルーカーボン・クレジット』を活用した 地球温暖化防止の取り組み

～持続可能な海洋資源の利用による環境価値の活用～

この度、中電技術コンサルタント株式会社（代表取締役社長 坪井 俊郎）は、地球温暖化防止に配慮した事業活動と、横浜市が取り組む「横浜ブルーカーボン事業」の普及促進に貢献するため、自社活動の CO₂ 排出量について、持続可能な海洋資源の利用（わかめの地産地消）等による CO₂ 削減効果を活用し、カーボン・オフセット（埋め合わせ）を行いました。この試みは、中国地域で初めての事例となります。



「ブルーカーボン」とは、海洋に生息する生き物（海藻・マングローブ等）によって吸収され固定される炭素のことで、我が国の新たな地球温暖化対策の吸収源として期待が高まっています。当社は、2012 年度より「ブルーカーボン」に関する研究や業務に取り組んでおり、今回、2019 年度の当社のブルーカーボンをテーマとした事業活動における CO₂ 排出量（約 920 kg-CO₂）を横浜市独自のカーボン・オフセット制度（横浜ブルーカーボン・オフセット制度）で創出された、地元産わかめの地産地消による CO₂ 削減効果、ハイブリッドタグボートへの代替による CO₂ 削減効果（合計 900 kg-CO₂）を活用し、実質的に CO₂ 排出ゼロの活動としました。このような取り組みにより、当社が目指す低炭素社会の実現や持続的な海洋環境の保全、そして「ブルーカーボン」の普及促進に貢献します。

当社の取り組みは、建設コンサルタントに限らず、今後全ての業界で低炭素・脱炭素を目指していく中で、先進的な環境活動といえます。中電技術コンサルタント株式会社は、今後も地球温暖化対策の取り組みを推進して参ります。

<本件に関するお問い合わせ>

CEC 中電技術コンサルタント株式会社
沿岸整備部、都市整備部
〒734-8510 広島県広島市南区出汐二丁目 3-30
電話：082-256-3351 <https://www.cecnet.co.jp/>

当社は、本活動を通じて持続可能な開発目標（SDGs）の達成を推進します。



【参 考】

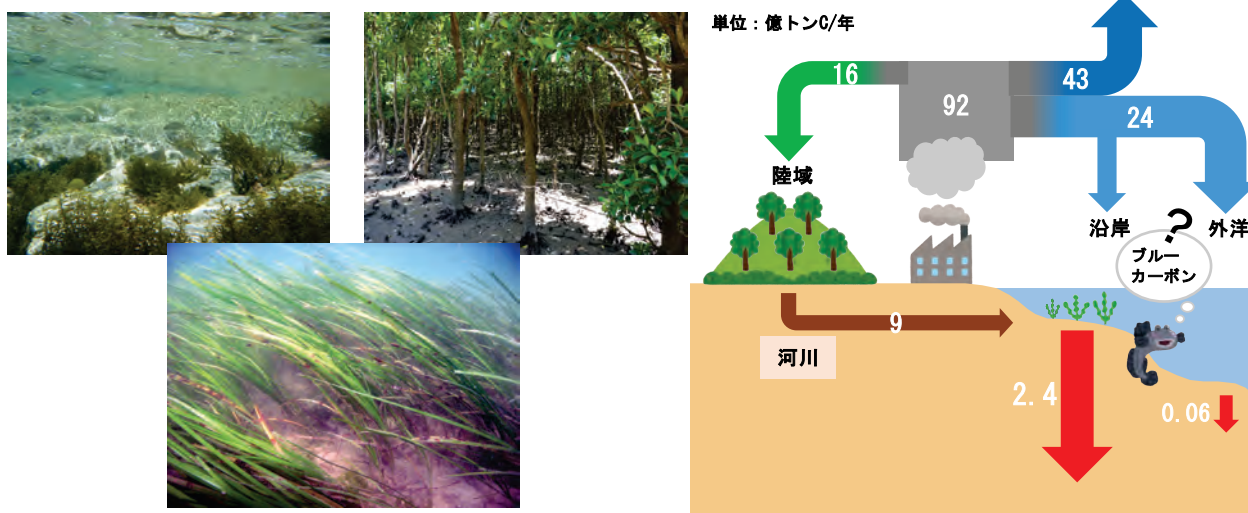
1. カーボン・オフセットとは

カーボン（carbon=二酸化炭素）オフセット（offset=相殺）という、CO₂ 排出量を埋め合わせる行為のこと。
ある主体 A が削減できない「どうしても出てしまう CO₂」を、減らせる別の主体 B の「削減量」を「購入すること」で、埋め合わせすることができる。

2. ブルーカーボンとは

ブルーカーボンとは、海藻や海草、植物プランクトン等が主に光合成によって、大気中から炭素（二酸化炭素 CO₂）を取り入れ、海洋生態系に吸収され固定される炭素のこと。12 月にスペインで開催された気候変動枠組条約第 25 回締約国会議（COP25）においても注目された。陸上の森林などに蓄積される炭素であるグリーンカーボンの対語で、2009 年に国連環境計画（UNEP）によって命名された。日本は世界第 6 位の長さの海岸線（約 35,000 km）を保有しており、ブルーカーボン技術が確立されれば、世界的にも主要なブルーカーボン貯蔵国となる可能性が高いといわれている。また、ブルーカーボンについては、国土交通省や環境省等が今後、政策的に取り組んでいくことを検討している。

（※当社は沿岸域のブルーカーボン研究について、港湾空港技術研究所や神戸大学と連携して進めています。）



3. 横浜ブルーカーボン・オフセット制度とは

横浜ブルーカーボン・オフセット制度は、2014 年度から開始された横浜市独自のカーボン・オフセット制度で、これまでのクレジット創出は、わかめの地産地消、海水ヒートポンプ導入、LNG 燃料タグボート導入、ハイブリッドタグボート導入、アマモによる CO₂ 吸収・固定により行われている。また、オフセットについては、トライアスロン大会をはじめスポーツ・イベントや地球温暖化対策に強い熱意を持つ事業者の活動に対して実施されており、2018 年度は 164.4 t-CO₂ のカーボン・オフセットが実現された。

4. 他の地域、全国の事例

国内では国の制度による国内クレジット、J-VER、J-クレジット等を活用したカーボン・オフセットは多数実施されているが、本件のように「横浜ブルーカーボン事業」の持続可能な海洋資源の利用による環境価値を活用した事例は少なく、特に中国地域では初の取り組みとなる。